

2013年4月12日

横浜美術館コレクション展 2013年度第1期

「賛美小舎」—上田コレクション

特集展示：荒木経惟 (写真展示室)

The Exhibition of the Collection of the Yokohama Museum of Art
Sambi Shousha : UEDA Collection
 ARAKI Nobuyoshi

2013年4月13日(土) – 6月16日(日)

横浜美術館



横浜美術館のコレクションは、これまで多くの篤志家の方々から寄贈された貴重な作品によって充実してきました。2013年度第1期のコレクション展は、2010年度に150件171点の作品をご寄贈くださった「さんびしょうしゃ賛美小舎」こと上田くにあき國昭・かつこ克子夫妻によるコレクションを、それ以前の受贈作も含め一挙にご紹介します。

「賛美小舎」とは、岡倉天心の思想や美術家マコト・フジムラが示す、日本文化の根底には美を讃える心がある、という考えに共鳴した上田氏が自邸に付した名称です。

高校教師であった上田氏は、かねてから古美術に関心を寄せていましたが、40歳代後半の1987年頃から、若手美術家の可能性を支援しようと、その収集を始めました。収集の手始めとなった川崎麻児や、新しい日本画の動きの担い手とされた岡村桂三郎、マコト・フジムラらの作品、また石原友明のヴェネチア・ビエンナーレ出品作などを精力的に収集し、やがて45作家と1組、360件以上の規模を誇るコレクションを形成するに至りました。

上田夫妻は、「賛美小舎」の活動主旨に、「市民一人一人が、個人や市民同士で、または行政・美術館等の機関や美術関係者との共同によって美術文化を支え、次代に伝達する主体となり、美術の世界が一層透明化・開放される〈美術民主主義〉の実現」を掲げて、収集した作品群を一切売却せず、公立美術館に寄贈しました。上田コレクションは現在10館の公立美術館に分蔵されていますが、当館はその中で最多の175点を所蔵しています。

今回は作家ごとの作品群のまとまりに着目し、上田コレクションにおいて垣間見える各美術家の特色を紹介します。

また今期の写真展示室では、2008年に横浜美術館グランドギャラリーを会場に撮影された《横浜美人100人》(2013年度横浜美術館コレクション・フレンズ対象作品)をはじめ、現代日本を代表する写真家として国際的な評価を得ている荒木経惟を特集展示します。



上) 湯川雅紀《Cherry-1》2004年、油彩、カンヴァス、230.0×190.0cm
 下) 荒木経惟《横浜美人100人》2008年、ゼラチン・シルバー・プリント(100枚組)
 各90.0×60.0cm、荒木経惟氏寄贈、Photo © ARAI Takashi

※いずれも賛美小舎 上田國昭氏・上田克子氏寄贈

展覧会の見どころ

○「賛美小舎」—市民コレクターの「粹」^{すい}

昨今、作品購入をより気軽に楽しむアートフェアが注目を集め、現代美術コレクター、「ハーブ&ドロシー」のドキュメンタリー映画が共感を呼んでいるように、鑑賞のみに留まらず、作品をコレクションするというアートとの一歩進んだ付き合い方が、日本でも根付いてきました。

収集のプロセスや、その裏にあるコレクターの想い。上田夫妻がコレクションを通して実現した、若手作家、そして美術界の支援への熱い想いを、展示から感じてください。

○「賛美小舎」—日本の現代美術

横浜美術館コレクション展では、展示に統一テーマを設定したり、同時開催の企画展と連動するなど、より多角的にコレクションに親しんでいただくための試みを続けています。

2013年度第1期でご紹介するのは、日本の現代美術作家の作品です。同時開催の「Welcome to the Jungle 熱々! 東南アジアの現代美術」展でご紹介する、東南アジア8か国の作家による作品とともに、現代のパラエティ豊かな表現に触れてください。

○「特集展示：荒木経惟」

—荒木経惟と横浜美術館コレクション

《横浜美人100人》は、2008年に開催された企画展「わたしの美術館」にて、ゲストキュレーターの一人として参加した荒木経惟が横浜美術館を会場に撮り下ろした作品です。本作は、お気に入りの作品を1点選び、横浜美術館のコレクションを支援するプログラム「横浜美術館コレクション・フレンズ」の今年度の支援対象作品のひとつ。一瞬にして人物の内なる魅力を捉えフィルムに焼き付ける、荒木作品の魅力をご堪能ください。

—出品作家（予定、50音順）

石原友明、太田三郎、岡村桂三郎、尾長良範、小沼直晴、小野友三、川崎麻児、河嶋淳司、北辻良央、小滝雅道、齋藤典彦、鈴木強、須田悦弘、曾根裕、武田州左、中川幸夫、中山ダイスケ、袴田京太郎、日高理恵子、福井江太郎、藤田淳、マコト・フジムラ、間島領一+福田美蘭、間島領一+森村泰昌、松井智恵、松本春崇、宮脇愛子、向山喜章、柳幸典、山口秀樹、山本直彰、湯浅龍平、湯川雅紀、尹熙倉、吉永裕、若江漢字



左上) 河嶋淳司《犬面》1989年、紙本着色、88.5×71.0cm

右上) 石原友明《Plan-I.S.M.(#5)》1987年
ゼラチン・シルバー・プリント、油彩、木炭、紙、コラージュ、182.0×91.0cm

下) 川崎麻児《目を閉じて》1987年、紙本着色、130.3×162.0cm

関連イベント ※詳細は横浜美術館ホームページをご覧ください。

1. アーティストトーク

実際の作品を前にして、出品作家のお話をうかがいます。

(聞き手:担当学芸員)

日時:5月18日(土) 小野友三 氏

6月 1日(土) 川崎麻児 氏 各日14:00~14:40

会場:コレクション展 展示室

※事前申込み不要。

※当日有効の観覧券が必要です。

2. ギャラリートーク

さまざまな視点で作品を見つめ、鑑賞の楽しみを深めるエドゥケーター(教育担当)によるトーク。

日時:4月19日(金)、5月3日(金・祝)、5月31日(金)、6月7日(金)、
各日14:00~14:30

会場:コレクション展 展示室

※事前申込み不要。

※当日有効の観覧券が必要です。

3. 視覚に障がいのある人とない人が共に楽しむ鑑賞会

対話をとおして相互に作品鑑賞の喜びを深めるワークショップ。

後援:横浜市文化観光局

日時:5月17日(金) 14:00~16:00

会場:コレクション展 展示室

定員:20名(要事前申込み、抽選)

※当日有効の観覧券が必要です。

(障がい者手帳をお持ちの方と同伴の方1名は観覧無料。)

4. おやこで楽しむコレクション展!

おとな&子どもで、ゲームをしながら展覧会を鑑賞するワークショップ

日時:5月26日(日) 14:00~15:15

会場:コレクション展 展示室

対象:小学校3年生以上のお子さまと保護者の方

定員:各回10組(1組4名まで、要事前申込み、抽選)

参加費:無料(観覧料も無料)



基本情報

横浜美術館コレクション展2013年度 第1期

2013年4月13日(土) - 6月16日(日)

会場

横浜美術館

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1

TEL: 045-221-0300 FAX: 045-221-0317

<http://www.yaf.or.jp/yma/>

開館時間

10:00~18:00 (入館は17:30まで)

※木曜日休館

観覧料

一般 500 (400) 円

大・高校生 300 (240) 円

中学生 100 (80) 円

※小学生以下無料

※()内は有料20名様以上の団体料金(要事前予約)

※毎週土曜日は、高校生以下無料(生徒手帳、学生証をご提示ください)

※障がい者手帳をお持ちの方と同伴の方(1名)は無料

※毎月第3月曜日は横浜市在住の65歳以上の方は無料(「濱ともカード」をご提示ください)

※企画展ご観覧当日に限り、企画展の観覧券でコレクション展もご覧いただけます

左上) 須田悦弘《萩》2009年、木、彩色、2,5×4,0×3,5cm ©yoshihiro suda
Courtesy of Gallery Koyanagi

右上) 河嶋淳司《進化》1991年、顔料、カンヴァス、コラージュ、75,0×64,0cm

下) 福井江太郎《如》2000年、岩絵具、墨、木炭、麻紙、180,0×180,0cm

プレスリリースお問い合わせ

横浜美術館 広報担当(宮野、藤井)

TEL: 045-221-0319 FAX: 045-221-0317 E-mail: pr-yma@yaf.or.jp